

現在の地名 (所在地)	区分	アイヌ語地名		アイヌ語の意味	解釈及び由来	出典	備考	
		カナ表記	ローマ字表記				種別	コメント
19 和 ナイ 幌 内 (雄武町)	地区 川	ポロナイ	poro-nay	大きい・川	道内にポロナイと呼ばれる川は多いが、小さい川であるのが多い。一般にナイは小川、沢と理解され、その中で、あるいは近くのナイと比較しての大きいナイということが多い。ところが雄武町のこの幌内は川下に行ってみると、語義通りの堂々たる大川である。ナイという言葉が、そもそもはただ「川」を意味していたことを物語っているのかもしれない。	山 田	A	
20 和 ナイ 幌 内 (釧路町)	地区	ポロナイ	poro-nay	大川 {大きい・川}	小川にして魚類も亦無し。 尻羽岬からここまで約 10 本並んでいる小川の中での最長のナイだとして呼ばれた名か。	永 田 山 田	C	?
		ポルウンナイ	poru-un-nay	洞穴・ある・川	松浦氏の諸誌には「ホロランナイ」、「ポロランナイ。大穴岩有」、「ホールンナイ」と書かれてあり、それから見ると、あるいは左記の形だったかもしれない。	山 田		-
21 和 ナイ 幌 内 和 ナリ 幌 成 (深川市)	川 地区	ポロナイ	poro-nay	大きい・川	もちろんポロナイなのだが、その川口のそばの市街地は幌成と呼ばれてる。北海道駅名の起源を見ると「幌内線にも同音の駅名があるため幌成としたのである」と書かれている。	山 田	A	
22 和 ニ 幌 似 (共和町)	地区	ポロナイ	poro-nay	大きい・川	掘株川は当駅付近に至って川幅増大するのでこの称があったのであろう。 この種の大川の中流をポロナイと呼ぶことは殆ど例がない。	駅 名 山 田	B	?
		ポロイチャンイ *ポロイチャニ	{ poro-ican-i }	大きい・鮭鱒産卵場	駅や役場に近い御手作場の辺が、昔はホロイザンニ、ホロイサンニと呼ばれていたという。それが簡単に省略されて幌似となったのかもしれない。 {松浦『丁巳日誌』は「ホロイチャン 多く鮭が卵を置く」と書いている。共和町史は「今の旭橋のやや上流に渡し場があり、この辺りに鮭鱒が盛んに上がって、大きなホリ(鮭鱒産卵穴)が作られたことだろう。」と書いている。}	山 田		- 旧記からすると、山田解の方が妥当と思われる。
23 ホロニ タチヘツ 幌新太刀別 (沼田町)	川	ポロニタッペツ	poro-nitat-pet	大きい・湿地・川	{恵比島駅の北を流れている川で、駅から北の幌新温泉まではヨシ原とカン木の中を流れているという。}	山 田	B	-
24 和 ヌカ 幌 糠 (留萌市)	地区 駅	ポロヌカペツ	poro-nupka-pet	大きい・野原・川	駅より少し上手にある留萌川北支流の中幌糠川の名。 この川より下流にある林川の原名がボンヌカペツ(小さい・野原の・川)で、この二川の名が対称されていた。	山 田	B	-

現在の地名 (所在地)	区分	アイヌ語地名		アイヌ語の意味	解釈及び由来	出典	備考	
		カナ表記	ローマ字表記				備考	コメント
25 ホロハ 幌延 (幌延町)	町 駅	ポロヌタブ	{ poro-nutap }	大きい・野の出っ張り(川の湾曲)	ホロノタブ(『丁巳日誌』) {明治 20 年図を見ると、現市街地のすぐ南側で昔はサロベツ川が大きく湾曲していた所の名であるが、現市街地に戸長役場が置かれたのは、村設置から大きく遅れた明治 42 年になってからだという。}	松浦		-
		ポロヌブ	poro-nup	大きい・野原	従来からこのように解釈されてきたが、元来はどここの地名だったかはっきりしない。明治の地図には、天塩川が海浜の後で左折する辺りにポロヌブと書いているが、あまりに辺地の小地名である。 {ポロヌブは確かに辺地の小地名だが、明治 11 年幌延村と沙流村が設置されたときは住民皆無の名だけの村であったという。松浦図には海岸線にホロヌフ、シヤロロの記載があり、これから幌延村、沙流村となったとも考えられる。}	山田	C	-
26 ホロピナイ 幌美内 (千歳市)	地区	ポロピナイ	poro-pi-nay	大きい・石・川	諸地にピナイの名があるが、pi-nay (石・沢)か、あるいは pin-nay (傷・沢 = えぐれたような沢)である。支笏湖畔に数個のピナイが残っているが、どれも急傾斜のえぐれたような沢でピンナイの姿である。だがこの幌美内の沢を上るとガレ石だらけの沢であり、どちらか分らない。幌美内はそういったピナイの中で一番大きい沢で、恵庭岳の頂上の少し下から麓までを立ち割ったようにえぐっている。それでポロ(poro)をつけて呼ばれたのだった。	山田	C	? どちらとも特定しがたい。 ?
		ポロピリナイ	poro-pir-nay	大きい・傷・川				
		*ポロピンナイ	poro-pin-nay					
27 ホロハツ 幌別 (登別市)	地区 駅	ポロペツ	poro-pet	大きい・川	この辺での大川である。現在では、海岸よりわずかな土地に残されているだけだが、元来は登別市の旧名。	山田	A	
28 ホロハツ 幌別 (寿都町)	川 山岳	ポロペツ	poro-pet	大きい・川	両岸のたっている狭い川で、他地の幌別とは姿が違うが、地図で見ると歌棄、磯谷の海岸地区での長い川である。	山田	B	-
29 ホロマン 幌満 (様似町)	地区 川	ポロオマンペツ	{ poro-oman-pet }	大・入・河 {大きい・行く・川}	-	秦	C	- 諸説あり特定しがたい。 - -
		ポルオマペツ	{ poru-oma-pet }	洞窟・ある・川	ポルマベツ。この川の奥に洞窟があるため。	上原 山田		
		ポロスマペツ	poro-suma-pet	大石川 {大きい・石・川}	-	永田		
		ポルオマンペツ *ポロマンペツ	poru-oman-pet poroman-pet	(川を上り)洞穴 ・に行っている・川	判断に困るが、一応こう読んでおきたい。	山田		

現在の地名 (所在地)	区分	アイヌ語地名		アイヌ語の意味	解釈及び由来	出典	備考	
		カナ表記	ローマ字表記				確定	コメント
30 和ムイ 幌向 (岩見沢市)	地区 川 駅 山岳	ポロモイ	poro-moy	大きい・川が曲がっていて、水が ゆったり流れている所	永田氏は moy を「渦」と訳したが、大川では川が曲が っていて、水がゆったり流れている所を言う。石狩川がここ で大きく屈曲していたので、こう呼ばれたのだろう。	山田	A	
31 ホムイ 幌武意 (積丹町)	地区	ポロモイ	poro-moy	大きな・入江	市街地からわずかで大きな入江の崖上に出れる。	山田	A	
32 ホモシ 幌茂尻 (根室市)	地区	ポロモシリ	poro-mosir	大村 {大きな・国土}	昔祖父多く住居せし故。	永田	B	-
33 ホンキ 本岐 (津別町)	地区	ポンキキン	{ pon-kikin }	小さい・キキン川	ポンキキン川筋の地名もポンキキンと呼ばれ、前のころ は翻木禽、翻木禽のような字でポンキキンと呼ばれたが、 今は下略されたりして本岐となった。川名は、同じ東支流 であるオンネキキンと対のような川で、この方が少し小さ い川であるためポンと呼ばれた。たぶんキキン(エゾノウ ワミズザクラ)があった川であろうが、このような地形の場 合は、それがなくても大きい方の川名が使われた。 {確かにキキンニ(kikin-ni)があったという。}	山田	A	
34 ホンキ 本桐 (三石町)	地区 駅	ポンケリマブ	{ pon-kerimap }	子なる・ケリマブ川	左の下略形の転訛。 「ケリマブ」は「ケニマブ」即ち「ケニ・オマ・ブ」(ヒルガオの 根・ある・所)の意である。{?}	駅名	C	? -
35 ポントマリ 浦雲泊 (釧路町)	地区	ポントマリ	{ pon-tomari }	小さい・泊地	海岸部落の名で、道内諸地に同名がある。	山田	A	
36 ホンハッ 奔別 (三笠市)	地区 川 山岳	ポンペッ	pon-pet	小さい・川	ただし小さい川とはいいが、行って見ると相当な川であ る。川名のポロ、ポン(大、小)は近隣の川との比較で呼 ばれたものらしい。 {対応するポロペッは存在しないという。幾春別川支流を 意味するポンイクスンペッ(小さな・(幾春別)川)の意で付け られたとも考えられる。}	山田	B	?
37 ホンハッ 本別 (本別町)	町 川 駅	ポンペッ	pon-pet	小さい・川	相当の川ではあるが、対岸の美里別などと比較して小さ い川と呼んだものか。	山田	B	-
38 ホンハッ 本別 (鹿部町)	地区 川	ポンペッ	pon-pet	小さい・川	すぐ南にあるポロペッ(折戸川らしい)に対する川名であ ったようである。	山田	B	-

現在の地名 (所在地)	区分	アイヌ語地名		アイヌ語の意味	解釈及び由来	出典	備考	
		カナ表記	ローマ字表記				備考	コメント
39 ポンベツ (別海町)	地区 川	ポンベツ	pon-pet	小さい・川	西別川に注ぐ北支流の名。流長 20 キロもある川であるが、本流に対して小さいという意であろう。	山田	A	
40 ホンポト 奔幌戸 (浜中町)	地区	ポンポロト	pon-poroto	小さい・幌戸沼	元来は、たぶんポント(pon-to 小さい・沼)だったのであろうが、西隣の幌戸沼(ポロト poro-to 大・沼)の方が意味を離れた固有名詞になったために、このように呼ばれるようになったのであろう。	山田	A	
41 ポンポロベツ (歌登町)	川	ポンポロベツ	pon-poropet	小さい(支流の意)・幌別川	幌別川源流の西支流。 {幌別川(正式には北見幌別川)は、poro-pet 「大きい・川」の意。}	山田	A	
42 ホンムカ 奔無加 (留辺蘂町)	川	ポンムカ	pon-muka	小さい(支流の意)・無加川	留辺蘂市街の西のはずれで無加川に注いでいる北支流の名。 {無加川については別掲。}	山田	A	

【マ】

現在の地名 (所在地)	区分	アイヌ語地名		アイヌ語の意味	解釈及び由来	出典	備考	
		カナ表記	ローマ字表記				備考	コメント
1 マオイ 馬追 (長沼町)	地区 山岳	マウオイ *マウオイ	maw-o-i	ハマナスの実・多い・所	海岸から遠いこんな所に「ハマナス」があるのかと思ってしたが、由仁で聞くと今でも残っているとのことであった。 {かつてのマオイ川が旧マオイ沼に注いでいた河口左岸砂州にハマナス群生地があったという。}	山田	A	
2 マクベツ 幕別 (幕別町)	町 駅	マクウンベツ *マクンベツ	mak-un-pet	後(山の方) ・にある(入っている)・川	明治 39 年旧 5ヶ村を合して村役場を旧幕別(まくんべつ)村内の猿別市街に置いたのが始まりだったが、旧止若(やむわっか)市街が発達したため役場も移転し、昭和 38 年止若駅は幕別駅に、同 41 年止若市街も幕別市街と改称された。幕別の名の由来については、大川の分流が山側を回ってまた本流に合している場合に、その分流をマクンベツと呼んでいたようで、疑問点が多いが、根室本線沿いの所を流れていた小流から出た名であつたらしい。	山田	B	-
3 マサリベツ (留萌市)	川	マサラベツ	masar-pet	海岸草原の・川	今は地形も変わったのだろうか、マサラの感じがしない所である。	山田	C	-

現在の地名 (所在地)	区分	アイヌ語地名		アイヌ語の意味	解釈及び由来	出典	備考	
		カナ表記	ローマ字表記				備考	コメント
4 マシケ 増毛 (増毛町)	町 駅	マシケイ マシケ	maske	ヨロ 宜しき 多過ぎる、余る	-	松浦 山田	C	-
			mas-ke	カモメの成る カモメの所				この海湾一面にニシンが群来 ^{クキ} る時はカモメで一杯になるため。 元来は浜益(浜益毛)の所の名であったが、その運上屋をここに移してから、ここが増毛といわれるようになったのだという。
5 マシホ 増幌 (稚内市)	地区 川	マシウポポ	mas-upopo	カモメ・唱舞	永田氏は「マシポポイ。カモメの躍る・所。」と書いた。土地のアイヌの伝承らしい。松浦氏は「マシホホ」、「マシウホホ」と書いた。カモメが鳴きながら群れ飛ぶ姿をウポポしていると呼んだのであろう。	山田	C	-
6 マシウ 摩周 (弟子屈町)	湖 山岳	マシウト *マスント	mas-un-to	カモメの沼 {カモメ・そこにいる・沼}	北海道の西部、北部ではカモメを mas ともいったが、あの辺ではカピウ(kapiw)と呼んでいたようだし、第一あんな山中に海のカモメでは何だか変だ。しかし外に資料もない。神秘的な名だとして置く外なさそうである。	永田 山田	C	?
7 マタオ 俣落 (中標津町)	地区 川 山岳	マタオイ *マタオチ	mata-ot-i mata-oci	冬居川 冬・ごちゃごちゃいる もの(川、所)	この川はメム(mem 泉池)が三個所あって鮭が多く、冬も滞留することがあったため。	永田 山田	C	?
8 マタル 愛別 (愛別町)	川	マタルクシアイペツ	{ mata-ru-kus -aypet }	冬・道・通っている・愛別川	アイヌ時代からこれらの川を通じて天塩川の上流と交通があったからの名である。 {愛別については別掲。}	山田	A	
9 マタル 又留内 (稚内市)	地区	マタル{ナイ}	mata-ru {-nay }	冬・路{・川}	積雪の際クサンルへ越る路なり。 その道がどこであったか忘れられたが、少し北側の所に地形上交通できそうな沢もある。この沢から稚内への旧道があったという。 {松浦『戊午日誌』は「冬分クサンルへ道なきとき、この沢目よりトベナイ(稚内)へ越えた」と書いている。}	永田 山田	A	
10 マツネ 松音知 (中頓別町)	地区 山岳	マツネシリ	matne-sir	女である・山	トンベツ 頓別川上流の東側に、川下から敏音知(pinne-shir 男である・山)とともに、二つの独立山が並んでいる。 {「敏音知」は別掲。}	山田	A	pinne-shir と対比して呼ばれたものと思われる。
11 マツ 松前 (松前町)	町 湾	マツオマイ *マトマイ	mat-oma-i	婦人・いる・所	元来が川の名でマトマイあるいは、マトマナイ(mat-oma-nay)川と呼ばれていた所であったのが松前になったようである。	永田 山田	B	-

現在の地名 (所在地)	区分	アイヌ語地名		アイヌ語の意味	解釈及び由来	出典	備考	
		カナ表記	ローマ字表記				備考	コメント
12 マツカ 真狩 (真狩村)	村 川	マツカリブ	mak-kari-p	山後を回る所	-	永田	C	-
		マツカリペツ	mak-kari-pet	山後を回る川	-			
				奥(山)の方を回っている川	この川は、上流の方に行っても屈曲が多いので、こう呼ばれたのではなかろうか。	山田	-	
13 マツブ 真布 (沼田町)	地区 川 駅	パンケシウトカロマ *パンケシルトカロマ	panke-sir-utur -oma-p	下の山の間にあるもの(川)	真布川は幌新太刀別川の東支流。シルトルマップ川とも呼ばれる。それが前略されて真布川となったのであろう。たぶんもう一本上の原名右大股川がペンケシルトウロマ(上の山あい川)だったのであろう。	山田	B	-
14 マルセツ 丸瀬布 (丸瀬布町)	町 川 駅	マウレセブ	mauresep	?	私にも語義の見当がつかない。土地では小さい小川の集まってできた広い所との説があるやに聞いたが、よく分からない。	永田 山田	C	? -
		マルセツ	-	三つの川の集まる広い所	{ 29年版からは「マウレセブ」から転訛したものであるが、意味は不明である。 } としている。}	駅名		? -
		モウレセブ	mo-u-re-sep	子の川が並んで三つある 広い所{?}	-	丸瀬布 町史		? -
15 マルマツ 丸松 (遠別町)	地区	パオマウツナイ *パロマウツナイ	par-oma-utnay	口あるウツナイ(肋骨川)?	遠別川の北にあるウツのつく三つの川の内のひとつ、パロマウツナイ(マルマウツ、モウツとも)の訛りであろう。	山田	C	-
16 マレフ 稀府 (伊達市)	地区 駅	エマウリオマレブ	emawri-omarep	イチゴある所{?}	イマリマレブまたはイマリマリブとアイヌはいう。松浦『東蝦夷日誌』は「イマリマリブ。鮭場なり。名義、泳ぐ形云なり。」と書いた。明治の五万分図にはイマリマブ川と書いている。検討のいる地名。 {昔、稀府川の土手には色々なノイチゴがあったという。}	永田 山田	C	? -

【ミ】

現在の地名 (所在地)	区分	アイヌ語地名		アイヌ語の意味	解釈及び由来	出典	備考	
		カナ表記	ローマ字表記				備考	コメント
1 ミカ 三笠 (三笠市)	市	-	-	-	明治15年に空知集治監(三笠小学校付近)が開設された当時から、裏山が奈良の「三笠山」に似ていたことによる。明治39年三村合併の時、この名をとって三笠山村とした。	三笠 市史	A	和名と思われる。

現在の地名 (所在地)	区分	アイヌ語地名		アイヌ語の意味	解釈及び由来	出典	備考	
		カナ表記	ローマ字表記				備考	コメント
2 ミヌマイ 簾舞 (札幌市)	地区 川	ニセイオマフ	nisey-oma-p	絶壁の所 絶壁・ある・もの(所)	訛ってミソマツプと言う。今 ^{ミソマフ} 簾舞の字を用いる。元来は簾舞川の名らしい。あの辺にそれほどの絶壁は見えないが、豊平川の川崖のことであつたらう。nとmはよく訛る。ミソマツとも、また簾舞ともなつたのであろう。	永田 山田	C	-
3 ミツイ 三石 (三石町)	町 川 駅	ミトウシ	mitus	カバ 樺皮の桶	水を入れる器の名。樺皮をもってこれを製す。	秦	C	-
		ニトウシ	nitus		アイヌ語では古来からニトシという。また、この沖に三つの大暗礁あるためともいう。	松浦		-
		イマニツウシイ *イマニトウシ	i-ma-nit-us-i	魚焼串 それ(肉)・を焼く・串が ・ある・所	元名エマニツ・ウシと呼ぶ大岩ありて川中に立てり。創世文化神が鯨肉を焼いた串がとびはねて岩となったという伝説の岩の名だとする説。たぶん前略して、ニトウシという言葉から三ツ石になったとしたものであろう。	永田 山田		-
4 ミナミカヤ 南茅部 (南茅部町)	町	-	-	-	白尻村・尾札部村の合併に際して、茅部郡の南端に位置していることから命名された。	地名大辞典	A	「茅部」は「カウツペ」kaya-un-pe 帆・の・所」などが語源と言われている。
5 ミナミラノ 南富良野 (南富良野町)	町	-	-	-	明治41年下富良野村から分村する時に、母村の南に位置することにより名付けられたもの。	南富良野町史	A	「富良野」参照。

【ム】

現在の地名 (所在地)	区分	アイヌ語地名		アイヌ語の意味	解釈及び由来	出典	備考	
		カナ表記	ローマ字表記				備考	コメント
1 ムイネ 無意根 (札幌市)	山岳	ムイネシリ	muy-ne-sir	ミ 箕の・ようである・山	アイヌ時代の脱穀用の箕(ムイ)はよく木で作ったが、半月形であった。その円い所を上にして立てたような形の山なので、その名がついたのであろう。 {定山溪温泉から山頂を眺めると箕を伏せたように見えるという。}	山田	A	
2 ムカ 無加 (留辺蘂町)	川	ムカ	muka	氷上を越す{?}	「ム」は「塞がる」、「カ」は「イカ」のことで「越す」という意味。この川は温泉があるため、水が氷るのが遅かった。水が氷って、流れが塞がる時に始めて氷上を越せたため。	永田	C	? -

現在の地名 (所在地)	区分	アイヌ語地名		アイヌ語の意味	解釈及び由来	出典	備考	
		カナ表記	ローマ字表記				備考	コメント
3 ムカ 鶴川 (鶴川町)	町 川 駅	ムカ	{ ? }	水の湧く 水がにじみ出る	ここは水上平原で、所々に水が湧き出で源水となったためという。	上原 山田	C	? -
		ムクアブ *ムカブ	muk-ap	ツルニンジンある所 { ? }	{昔は浜近くの草原にツルニンジンがたくさんあったという。}	永田		? -
		ムカペツ	{ ? -pet }	(上げ潮で運ばれた砂で口を) 止められる川	-	J. バチラー		? -
		ムッカペツ	{ ? -pet }	^{フサ} 塞がる川	鶴川が上げ潮のため砂で川口が塞がれるからである。	駅名		? -
4 ムコウハッ 向別 (浦河町)	地区 川	モコチ	{ mo-koci }	静かな・その窪地(沢) ^{クボ}	上原氏は「モクチ。静かな窪」。松浦氏はその説を書くとともに「静かに寝らるる義也」とも書いた。	山田	C	-
		ムコッチ	mukotci	ツルニンジンある所	ムコッチはムクオッチの急言、ムクはツルニンジンでアイヌの食料となす。	永田		? -
		モコッペツ	{ mokot-pet }	モコチ・川	どれだったのか解しようもない。まずは古いモ・コチ説で考えてきた。それが慣用地名化して後、その川をモコッペツと呼び、向別となったとでも理解すべきか。	山田		-
5 ムサ 武佐 (中標津町)	地区 川 山岳	モサ	mosa	イラクサ{ ? }	バチラー辞典では、モサ、モセ、ムセは同じように「イラクサ」とある。それから見ると、武佐は「イラクサ」の意だったのかもしれない。	山田	C	? -
6 ムサ 武佐 (釧路市)	地区 駅	モサ	mosa	イラクサ{ ? }	語義は忘れられているが、こうだったのではなからうか。イラクサは多くの土地ではモセ、モシであるがモサとも呼ばれていたようである。	山田	C	? -
7 ムリ (音別町)	川	ムリ	muri	ムリ草	ムリ草がよく分からない。一般に「和名てんきそう、はまにんにく」で、海岸の砂浜に生える草と解されるが、このほか内陸にもムリの地名があり判断に迷う。	山田	C	? -
8 ムリ 武利 (丸瀬布町)	地区 川 山岳	ムリイ	muri-i	ムリ草ある所 {ムリ・所}	名詞の後に-i(所)と語尾がつかない。たぶんムリの語尾にアクセントがあってムリーと聞こえたのであろう。なお近文のシアヌレ媼にこの種地名を尋ねたらムン・リ(mun-ri 草が・高い)と思って来たがといわれた。確かに一つの意見である。	永田 山田	C	? -
9 ムロラン 室蘭 (室蘭市)	市 駅	モルラン	mo-ruran	小さい・坂	正確にいえばモ・ルエラニ(mo-ruerani 小さい・坂)である。崎守町に入る坂の名から出た名らしい。明治の半ばごろまでは、室蘭と書いても、それをモロランと呼んでいたのが、字に引かれて、いつか「むろらん」になってしまった。	山田	B	-

【メ】

	現在の地名 (所在地)	区分	アイヌ語地名		アイヌ語の意味	解釈及び由来	出典	備考	
			カナ表記	ローマ字表記				備考	コメント
1	メッ (今金町)	川	メツナイ	metp-nay	寒き沢{?}	-	永田	C	? -
		山岳	メム	{ mem }	湧壺	知里博士はメッはメム(mem 湧泉のある池)の転訛であろうと話された。	駅名山田		
2	メ トウ 芽 登 (足寄町)	地区	メトツ	metot	奥山	この川は然別湖の東裏山から流れて来る川である。	山田	B	両説とも同趣旨。
		川	メトツペツ	{ metot-pet }	山奥の・川	-	足寄町史		
3	メ ナシマリ 目梨泊 (枝幸町)	地区	メナシマリ	menas-tomari	東風(の時)の・泊地	東側に細長い岩岬が長く出ているので、東風の荒れる時には正に有難い停泊地になったことであろう。 {昔はヤマセ(東南風)のときには、船が避難したところだという。}	山田	A	-
4	メ ナシハッ 目梨別 (豊富町)	川	メナシペツ	menas-pet	東の・川	サロベツ川源流の右股、北見境からの{東からの}支流である。左記の意味だったろうか。	山田	B	-
5	メ マンハッ 女満別 (女満別町)	町 川 駅	メマンペツ	meman-pet	涼しい・川	-	永田	B	知里解の方が自然な形と思われる。
			メムアンペツ *メマンペツ	mem-an-pet	泉池・ある・川	この川の奥の湿原に泉池があり、鮭がおびたたく産卵するために入ったものだという。	知里		
6	メ ム 芽 武 (大樹町)	地区	メム	mem	泉の湧く小池	北にあるモイワ山の北麓から流れ出すメム川から来た地名。メムは泉の湧く小池のことで、またそこから流れ出す川の名としても呼ばれたものだった。	山田	B	-
7	メ ム 芽 生 (平取町)	地区	メム	mem	湧泉池	{額平川の左岸の台地に湧泉池があって、そこから細流となっている小川があるという。年中水が切れない沢だという。}	山田	A	-
8	メ ム 芽 生 (妹背牛町)	川	メム	mem	泉池	メムの川だったとしか読めないが、現在はその姿が見えない。妹背牛市街の東で昔はメトク(mem-etok 泉池川の・水源)と呼ばれていた辺で、土地の人に聞くとその辺は昔沼のような形で下から水が湧いていたが、後に整地して川の形にし、周辺は水田にしたのだという。	山田	A	-
9	メ ムロ 芽 室 (芽室町)	町 川 駅 山岳	メムオロペツ *メモロペツ	mem-oro-pet	泉池より来る川 {湧泉池・の所の・川}	地名として続けて呼ぶとメモロで、それに芽室と当て字された。メムは清水の湧く小池のことであった。	永田 山田	B	-

【モ】

	現在の地名 (所在地)	区分	アイヌ語地名		アイヌ語の意味	解釈及び由来	出典	備考	
			カナ表記	ローマ字表記				確バ	コメント
1	モアソロ 茂足寄 (足寄町)	地区 川	モアソロ	{ mo-asoro }	小さい・足寄川	足寄川源流は二股になっていて、左股の方がシ・アショロ(本当の足寄川。本流)で、右股の方がモ・アショロで茂足寄の字が当てられている。 {足寄については別掲。}	山田	A	
2	モイレウシ (羅臼町)	川	モイレウシ *モイレウシ	moyre-us-i	静湾 静かである・いつも～である・所	両側を大岩岬で囲まれた入江で、今は魚釣りの名所で行楽地になっている。	永田 山田	A	
3	モイワ 茂岩 (豊頃町)	地区	モイワ	mo-iwa	小さい・山	道内諸地にモイワがあり、それらは小高い目立つ独立丘で、その辺での霊山のような所であつたらしい。この独立丘は平べったい小山だが、川に向かって突き出た部分は少しこんもりと高くなっていて、遠くからも際立って見える。	山田	A	
4	モイワ 茂岩 (泊村)	地区	モイワ	mo-iwa	小さき岩山 小さい・山	海中の大岩に名付く。 モイワは全道各地にあり、どれも三角山または円頂山あるいは見る方角でそう見える小山だが、この場合は海中の岩だという。見ると鋭角のピラミッドのような巨岩が海中にそびえており、形は典型的なモイワである。	永田 山田	A	
5	モイワ 藻岩 (札幌市)	山岳	インカラウシペ *インカルシペ	inkar-us-pe	眺める・いつもする・所	この山を藻岩というのは、和人が北の円山の名モイワを誤ってこの山の名としたため、アイヌ時代の山名はインカルシペだったという。	山田	B	-
6	モウライ 望来 (厚田村)	地区 川	モライ	mo-ray	遅流(川)	モライはモイレと同義。 モイレ(moyre)は流れが静かで遅いということで、モライがそれと同じ意の語であるとアイヌから聞いたのであろうか。 {知里『地名アイヌ語小辞典』は「moray 遅流川」の項で、mo-nay (ゆるやかな・川)から出たとしている。}	永田 山田	C	-
			ムナイ	mu-nay	風によって閉じ、また開き等する義 塞がる・川	ムライ。本名モウライ。	松浦 山田		
7	モエレ (札幌市)	沼 公園	モエレペット	moere-pet-to	遅流の{?}・川・沼	何か変な形である。昔 moyre-pet (静かな・川)と呼ばれていて、それが沼化したので、後に to (沼)をつけていうようになったのでもあろうか。よく分からない。 { moere は moyre の誤植であれば意味は通じるが? }	永田 山田	C	? -
8	モオウコッペ 藻興部 (興部町)	川	モオウコッペ	mo-“ o-u-kot-pe ”	小さい(方の)・興部川(川尻・互いに・くつつく・川)	藻興部川も相当な川であるが、対になっていると考えられた興部川にくらべると若干小さいという意味でモ(mo)を付けられた。 {興部については別掲。}	山田	A	